

鳥取大学医学部 生命科学科 ゲノム医工学さん。

フェイスブック 2013年11月20日

技術士補（国家資格） & 上級バイオ技術者認定試験（民間資格）

「まずそれを正しく認識することである。考えることを止めてはいけない」と誰かのブログに書いてあった。

今年から3年次の学科講義「バイオ技術」を一コマ担当になった。この講義の目的の一つは、3年生が上級バイオ技術者認定試験（民間資格）の合格につながるよう関連講義をすること、とのこと。だから、今さらながらこの試験について調べた。ここでやっと冒頭の言葉につながるわけである。

上級バイオ試験に関しては省く。調べているうちに、似たような(?)ものに技術士補という国家資格（対する上級バイオは民間資格）があることを初めて知った。建設関係では有名な資格であるようだ。重要なことに、技術士補の約20ある部門の中に生物工学部門というのがあり、興味を持ったので引き続き冒頭の言葉に従っていろいろ調べ、以下のところにまとめた。とくに学生（1-3年生）はぜひ見てください。

<http://www.med.tottori-u.ac.jp/1/3/1494/9008.html>

就職支援のHP、最下段「技術士補試験（技術士第一次試験）に関する情報」

東京薬科大学生命科学部では、この技術士補（生物工学部門や環境部門）を重要な資格と位置づけており、実際この合格者が多い。今回、そのHPがこの資格について知る上で大変参考になった。東京薬科大学生命科学部の皆様、この場を借りてお礼申し上げます。

資格なので、それが生きるかどうかは状況次第であるが、結論としては、上級バイオ技術者認定試験を受験するのなら、技術士補試験の受験も少なくとも検討はした方が良い。技術士補は国家資格であるのは魅力である（バイオ上級は民間資格）。準備は必要だが、合格率は50~70%、決して低くない。過去問を見ると、数学、化学の得点能力の全盛期から約30年経った自分でも解けそうな感じである。

なお、どのようなものか知りたいので、技術士補の試験はぼくも来年受けるかもしれません。合格した時だけお知らせします。落ちたらカッコ悪いので、受験会場も新潟とか沖縄とか知ってる方に会わなさそうな場所を選んで受けます。もっとも、不合格の暁には、「バイオ技術」の講義をやる資格もないということにもなります（笑）。